

抗菌PPフィルムで付加価値を

— JIS Z2801 準拠の抗菌力

(株)真興社／アコ・ブランズ・ジャパン(株)

数多くのプリント・フィニッシングソリューションを提供するアコ・ブランズ・ジャパン株式会社（宮坂哲也社長、東京都中野区、以下アコ・ブランズ）は、昨年春から抗菌PPフィルムを販売、昨年は約300本を販売し、今年に入ってからその勢いは衰えない。

同社営業本部プリントフィニッシングソリューション営業部の石塚充孝部長によれば、「コロナ禍でラミネート加工自体が求められている。ラミネート加工すれば紙でも『拭く』ことができるので衛生的だ。今回の抗菌PPもそういった需要の延長上にある」という。

今月号の表紙の抗菌ラミネートは、印刷を担当する株式会社真興社（福田真太郎社長、東京都渋谷区）が手掛けた。真興社は同社の全自動B2ラミネーター「Delta」を導入し、ラミネート貼りも内製化しており、2017年7月号の表紙ではホログラムのラミネート加工を施し、読者の目を楽しませてくれた。

福田社長は「医学関連の専門書を扱う当社にとって、最適な付加価値」と抗菌PPフィルムを評価し、新商品の開発に取り組む。

◆ 新商品を生むきっかけに

アコ・ブランズで販売している抗菌フィルムは「EFG242 Anti-bacterial Gloss」（光沢・サイズ460/630mm・巻数2,000m）と「EFM252 Anti-bacterial Matte」（マット・サイズ460/630mm・巻数2,000m）の2種類だが、通常のラミネートフィルムより約1.5倍のコストがかかる。

抗菌の添加剤を基材に練りこんで生産することで、抗菌性を確保しているので、通常のフィルムと変わらない感覚で使用できる。

また、ニスによる抗菌コーティングなどと違い、剥がれる心配がない。そのため、長期間、使用・保存するアルバム、飲食店のメニュー、ランチョンマットのコーティングなどに適している。また、返品のある書



福田社長（右）と石塚部長

籍では、傷の付きやすいニスコートよりも丈夫なラミネート加工の方が向いている。

抗菌性能は、JIS Z2801準拠の検査で、大腸菌、黄色ブドウ球菌などの24時間後の減菌率は99.999%となる。

フィルムの消費期限は通常の保管状態で約1年間、抗菌作用は約5年間持続する。

ラミネート加工だと、ニスコーティングなどに比べて剥がす手間などもあり、リサイクルが難しいのではないかという印象があるが、石塚部長は「フィルムというプラスチックのイメージがあるが、PPが貼られていてもリサイクルは可能なおうえ、ラミネートを剥がす機械も普及しているので問題ない」と語る。

石塚部長は「この商品を提供することで、印刷会社さんが新商品を生むきっかけになってくれれば」と話す。

真興社では、すでにこの抗菌PPを活用し、医学関連書籍への活用に取り組んでいる。

抗菌性能を活かし、医療現場に置かれている書籍の表紙へのコーティング、また、コーティングされていない書籍に使う「抗菌コーティング」ブックカバーなどだ。

福田社長は「印刷の新しい付加価値になる」と期待する。

アコ・ブランズ・ジャパンでは先着10社にサンプルロールを提供する。問い合わせはJP.Marketing@acco.comへ。